

『おらんだ語彙控』本文と研究

池田 幸恵

長崎大学附属図書館経済学部分館武藤文庫には、『おらんだ語彙控』(706-M32)と題された¹、縦13.5センチ、横19.5センチ右綴じの蘭日語彙集が所蔵されている。表紙を除き全18丁の小冊子であり、半丁7語、全245語を収録している。見出しのオランダ語は90度回転させ横書きし、対訳の日本語は縦書きしている。

本語彙集の底本は、これまでの調査により、Pieter Marinの *NOUVELLE METHODE Pour apprendre les Principes & l'Usage des LANGUES FRANÇOISE et HOLLANDOISE* (フランス語およびオランダ語の原理と用法を学ぶための新しい方法、以下 *NOUVELLE METHODE* と略称)²であり、語の配列も原則として *NOUVELLE METHODE* の項目順に従っていることが明らかになっている。

本稿では、長崎通詞のオランダ語学習の一端を知るための資料として、本語彙集の翻刻を行い、明らかになった点を研究篇としていくつか述べることにする。

本文篇

見出しのオランダ語は、大文字で始まるものもあるが、大文字・小文字が同形のものはその判断が難しいため、すべて小文字に統一しておく。対訳の日本語は、漢字・平仮名・変体仮名・片仮名で記されているが、変体仮名は平仮名に改めている。

なお、後で *NOUVELLE METHODE* との関連について述べるため、*NOUVELLE METHODE* に収録されている単語³については、冠詞を除いた形で () に入れて示しておく。

1オ	gezig	見覚	(Gezicht)
	gehoor	聞覚	(Gehoor)
	reuk	香	(Reuk)
	smaak	味	(Smaak)
	gevoel	係れ	(Gevoel)
	liefde	愛	
	haat	悪ミ	

(2)

1 ウ	hoop	見込	
	wanhoop	見込」ソコナイ	
	vreugd	喜び	
	droefheid	悲ミ	
	deúgd	徳	(Deugd)
	ondeúgt	不徳	
	wijsheid	賢	
2 オ	dwaasheid	愚	
	droom	夢	(Droom)
	gedachte	存分	
	woord	事葉」懇ろ	(Woord)
	wensch	懇ろ」せめき	(Wensch)
	zúcht	せめき」息	(Zucht)
	adem	息」聲	(Adem)
2 ウ	stem	聲	(Stem)
	zweet	汗	(Zweet)
	gezondheid	健固	(Gezondheid)
	ziekte	病む	(Ziekte)
	pijn	痛ミ	
	hoest	咳嗽	(Hoest)
	verkóútheid	風引	(Verkoudheid)
3 オ	koorts	熱	(derdendaagsche Koorts)
	mazelen	はしか	(Mazelen)
	kinderpokken	ほふ瘡	(Kinderpokjes)
	jicht	痛風	(Jicht)
	búikloop	下利	(Loop)
	kwetsúúr	きず	(Kwetzuur)
	likteeken	傷痕	
3 ウ	kleederen	衣物	(Kleederen)
	hemd	褌衫	(Hemdb)
	rok	うわぎ	(Rok)
	móúwen	袖で	(Mouwen)

	zakken	たもと	(Zakken)
	voering	うら	
	broek	股引	(Broek)
4 オ	mantel	外套	(Mantel)
	múts	帽子	(Muts)
	hoed	同	(Hoed)
	das	首巻	(Das)
	kóúsen	田易	(Koussen)
	sokken	足袋	(Sokken)
	schoenen	鞋	(Schoenen)
4 ウ	laarzen	長沓	
	laarsjes	小形の「長沓	
	gespen	うわじめ	(Gespen)
	kóúsenbanden	めりやす」のひも	(Koussebanden)
	zakdoek	手拭	
	pantoffels	うわく」つ之類	
	kant	譯建縁縫」飾り	(Kant)
5 オ	knoopen	ぼたん	(Knoopen)
	handschoenen	手ぬき」 脚ぬ ←ぬ	(Handschoenen)
	mof	手ぬく」め	(Mof)
	degen	劍	(Deegen)
	rotting	杖	(Rotting)
	horelogie	袂時計	(Orlogie)
	tabaksdoos	烟草入	
5 ウ	snuifdoos	草烟入」烟草入	(Snuyftabaks-Doos)
	japon	日本衣物	(Japone Rok)
	jak	衣物	
	rok	うわき	(Rok)
	onderrok	したき	(Onderrok)
	nachtgewaad	ねまき	
	boezelaar	前だれ	

(4)

6 オ	linten	ひも	(Linten)
	waaijer	扇子	(Waayer)
	doos	入物	(Doos)
	kokertje	小入物	(Kookertje)
	knipbeürsje	金入	
	werk	細工物	(Werk)
	vingerhoed	指差	(Vingerhoed)
6 ウ	naald	針	(Naald)
	speld	留針	(Speld)
	schaar	剪刀	(Schaar)
	naaijen	ヌウ	(Naayen)
	stoppen	ふせ	(Stoppen)
	breijen	めりや」すすき	(Breyen)
	bordüren	縫する	(Borduuren)
7 オ	knoopen	ボたん」つくる	
	spelen	遊ぶ	
	zingen	歌ふ	(Zingen)
	dansen	戯る	
	teekenen	記るす	
	schenken	つぐ	(Thee schenken)
	deür	戸	(Deur)
7 ウ	schel	鈴	(Schel)
	venster	ま戸	(Venster)
	schúifraam	障子」けた	
	glazen	ひいど」ろの	
	winkel	店	(Winkel)
	zijkamer	わき」べや	(Zykamer)
	bovenkamer	うわへや	
8 オ	benedenzaal	下」座敷	
	trap	はしご	(Trap)
	dak	やね	(Dak)
	gang	通り道	(Gang)

	voorhúis	をうゑ	
	plaats	場所	(Plaats)
	múúr	壁	(Muur)
8 ウ	túin	花園	
	kelder	穴蔵	(kelder)
	sekreet	雪隠	(Secretet)
	regenbak	雨だめ	(Regenbak)
	pút	井戸	
	oven	むろ	(Ooven)
	zolder	天井	(Zolder)
9 オ	zoldering	二階	
	vliering	二階	
	goot	灌樋 窠 戸井	(Goot)
	luifel	のき	(Luifel)
	stoep	銀場	(Stoep)
	úithangbord	提札」看反之事	
	slot	鎖鑰	(Slot)
9 ウ	sléutel	かぎ	(Sleutel)
	grendel	貫ぬき	(Grendel)
	hamer	金づち	(Hamer)
	spijker	釘	(Spyker)
	nijptang	釘鈕	
	ladder	階子之」よこき之事	
	ledekant	寐床	
10 オ	bed	寐床	(Bed)
	hoofdeneind	頭の方	(Hoofden end)
	voeteneind	すその」方	
	deken	夜具	(Deeken)
	slaaplaken	ふとん	(Slaaplakens)
	oorkússen	枕	(Oorkussens)
	gordijnen	と帳	(Gordynen)

(6)

10	ウ	waterpot	尿瓶	(Waterpot)
		handdock	手拭	(Handdoek)
		tafel	つくゑ	(Tafel)
		stoel	極六	(Stoel)
		armstoel	うで載の」有——	(Armstoel)
		bedpan	寐床ぬく」め	(Bedpan)
		vúurmand	こ立	
11	オ	kússen	枕	(Kussen)
		stoof	脚ぬくめ	
		kas	入物	
		kleerkas	衣物入	(Kleerkas)
		schilderijen	画鏡	(Schilderyen)
		spiegel	鏡	(Spiegel)
		kagchel	一室」ヲ暖た」むる火器	
11	ウ	rústbank	休すみ」床	
		tapijt	毛氈	
		matten	疊	(Matten)
		bezem	ほうき	(Bezem)
		kaars	蠟燭	(Kaars)
		kandelaar	燭臺	(Kandelaar)
		snúiter	身剪	(Snuitar)
12	オ	zwavelstok	付木	(Zwavelstok)
		schoorsteen	烟出し	(Schoorsteen)
		haard	かま」どこ	(Haard)
		gootsteen	流汚ノ石樋」とい	(Gootsteen)
		túrf	どろすみ	(Turf)
		hoút	木	(Hout)
		kool	すみ	(Koolen)
12	ウ	asch	灰	(As)
		rook	烟り	(Rook)
		tang	火挟	(Tang)
		komboor	火入	(Komvoor)

	ketel	や罐	(Keetel)
	emmer	たご	(Emmer)
	doofpot	火けし」つぼ	(Doofpot)
13 オ	kan	入物	(kan bier tappen)
	rúif	厩	(Ruyf)
	hooi	枯草	(Hooy)
	haver	からつ」むぎ	(Haver)
	gras	草	(Gras)
	stroo	わら	(Stroo)
	mest	こやし	
13 ウ	toom	たづな	(Toom)
	zadel	くら	(Zadel)
	zweep	むち	
	rijtuig	車	
	tafellaken	シツポクヲ、イ	(Tafellaken)
	bord	はち	(Tafelbord)
	lepel	さじ	(Lepel)
14 オ	vork	鋒	(Vork)
	schotel	さら	(Schootel)
	flesch	瓶	(Vles)
	kopje	茶碗	(Kopje)
	schoteltje	小さら	(Schooteltje)
	koffijkan	コヲピイ入	(Coffykan)
	beker	さかづき之類	(Beker)
14 ウ	glas	ふらすこ	(Glas)
	mes	小刀	(Mes)
	zoutvat	塩入	(Zoutvat)
	peperbús	胡椒入	
	olie	油	(Olypotje)
	azijn	酢	(Azyinkan)
	wijn	酒	(dronkWyn)

(8)

15 オ	roggebrood	裸麦の」ばあん	(Roggebrood)
	wittebrood	しろ」ばあん	
	korst	ぱんの」うわがわ	(Korst)
	krúim	ばあんの」しん	(Krúim)
	vleesch	肉	(Osse Vleesch)
	spek	豚肉	(Spek)
	strúif	焼たまご	
15 ウ	melk	牛汁	(Melk)
	kool	な	(Bloemkool)
	wortelen	人参」紅蘿蔔	(Wortelen)
	boonen	豆	(Boonen)
	hoender	鶏	(Hoenders)
	drúiven	葡萄	(Duiven/Druiven)
	snippen	しぎ	(Snippen)
16 オ	patrijzen	山鳥	(Patrijzen)
	taling	かもめ	(Taelingen)
	eendvogel	かも	(Endvogel)
	konijn	白兔	(Konyn)
	haas	兔	(Haas)
	schelvisch	鱈	(Schelvis)
	kabljaauw	あら	
16 ウ	tarbot	かれい	(Tarbot)
	spiering	きすご	(Spiering)
	haring	コノシロ	(Haring)
	oester	カキ	(Oesters)
	zalm	マス	(Zalm)
	karper	フナ」鮒 <small>コイ</small>	(Karper)
	baars	コイ」 <small>ユキ</small>	(Baars)
17 オ	aal	ウナギ	(Aal)
	paling	大ナ <small>ナ</small> ウ <small>ウ</small> ぎ	
	kreeft	エヒガネ	(Kreeften)
	zout	シラ	(Zout)

	peper	コシヨウ	(Peper)
	azijn	ス	(Azyn)
	mostaard	カラシ	(Mostaard)
17ウ	boter	ボヲトル	(Boter)
	eijeren	タマゴ	(Eyeren)
	úijen	ヒトモジ	(Uyen)
	kaas		(Kaas)
	peren	ナシ	(Peeren)
	kersen	サクラ	(Kerssen)
	kooppen	買	(Kooppen)
18オ	winnen	モウクル	(Winnen)
	zenden	ヲクル	(Zenden)
	betalen	ハラウ	(boete betalen)
	leenen	カル	(van iemand leenen)
	dingen	ネギル	(Dingen)
		クツルト云コト	
		値より下ニコボル	
	bieden	ネヲツツケル	(Bieden)
	wegen	秤かくル	(Weegen)

研究篇

先に述べたように、『おらんだ語彙控』(以下『語彙控』と略称)は Pieter Marin の *NOUVELLE METHODE* を底本にしており、同書の第三章 Van 's Lichaams Deelen en Toevallen. (身体各部とその属性) の途中から第VI章 Van de Tafel en 't geen 'er op gebragt word. (食卓と食器) までと第VIII章 Van den Koophandel: (商売) の一部に拠っている。

『語彙控』自体には意味分類はなされていないが、ここでは *NOUVELLE METHODE* の項目に従って単語を分類する。なお、「身体の属性」などの名称は、*NOUVELLE METHODE* の項目名を私に訳したものである。

なお、オランダ語の後ろに () に入れて記した訳語は、『講談社オランダ語辞典』(講談社, 1994) と拓殖大学南親会編『蘭和大辞典』(創造社, 1943) に拠っている。

【身体の属性】gezicht (1オ1) ~likteeken (3オ7)

「身体の属性」に入る 35 語は、更に大きく 4 つに分類できる。

gezig (1オ1) から gevoel (1オ5) までは、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の人間の五感に関する語が並んでいる。gevoel (触覚) の訳語に「係れ」とあるのは、動詞カカルに他の物に触れる意があった⁴ためである。

liefde (1オ6) から dwaasheid (2オ1) までの10語は人間の感情・精神状態に関する単語である。これらの語は *NOUVELLE METHODE* には *deugd* を除き収められていない。

droom (2オ2) から zweet (2ウ2) までの8語は人間の精神的・身体的活動に関する単語であり、gedachte (考え・思考) を除き *NOUVELLE METHODE* にも見られる。gedachte に「存分」、wensch (願ひ・願望) に「懇ろ」、zucht (溜息) に「せめき」という訳語が当てられているのが特徴的である。「存分」は『日葡辞書』(引用は『邦訳日葡辞書』による)に「Zonbun 意見, 判断, または, 意志」とあり、考え・思いの意の古語であることが分かる。「懇ろ」「せめき」は他の蘭日辞書や日本の古辞書にも見られない語形であり、当時の長崎方言である可能性がある。なお、woord (2オ4) から adem (2オ7) までは、訳語が一語ずつずれたのを訂正しており、本資料が原本ではないことが分かる。

gezondheid (2ウ3) から likteeken (3オ8) までの12語は疾病に関する単語である。koorts (3オ1) は *NOUVELLE METHODE* では *derdendaagsche Koorts* (三日熱) として掲出されている。『語彙控』では、当該例のように *NOUVELLE METHODE* の見出し語の一部が見出し語となっている例や、*buikloop* (3オ5) のように語形が異なる例もあるが、これらの中には参考にした *NOUVELLE METHODE* の版の違いによるものも含んでいると思われる。

【男女衣服】kleederen (3ウ1) ～japon (5ウ2)

これら30語は男女の衣服に関する単語である。『語彙控』の収録語は、mouw (袖) の複数形 mouwen, zak (袋・たもと) の複数形 zakken など、*NOUVELLE METHODE* と同様に、複数形で掲出されている場合が多い。

『語彙控』では、*NOUVELLE METHODE* と共通する schoenen (靴) の後ろに、*NOUVELLE METHODE* にはない laarzen (長靴)・laarsjes (半長靴) が収録されている。このように、『語彙控』は原則として *NOUVELLE METHODE* に従いながらも、単語の前後に関連する語を補っている場合がある。

また、*NOUVELLE METHODE* にはない laarsjes や zakdoek (ハンカチ) は、『和蘭字彙』や『訳鍵』、『改訂増補蛮語箋』などの他の蘭日辞書にも収録されていないものの、*NOUVELLE METHODE* の編者である Pieter Marin の *Groot Nederduitsch en Fransch Woordenboek*⁵ には、laarsjes・zak-neusdoek の語が収録されており、『語彙控』の編集に当たっては、*NOUVELLE METHODE* 以外の蘭日辞書をも参考にした可能性がある。

訳語で特徴的なのは、kouisen (メリヤス) の「田易」、handschoenen (手袋) の「手

ぬき, japon の「日本衣物」などである。「田易」は『嬉遊笑覧』に長崎の俗語表記であるとの指摘があり,「手ぬき」も『長崎方言集覧』⁶に「メリヤスの手袋を云ふ。尤も上部は指頭の現はるるやうに作つてある」と記されており,長崎独自の表記や方言である。

japon については, *NOUVELLE METHODE* の Japonse Rok は Nachtrok と共に掲出されており,共に寝巻きの意である。『和蘭字彙』(早稲田大学出版会,1974)では *japansche rok of nachtabbert* に「筒袖ニシタル日本風ノ着物」と訳されており, japon も *japonse rok* も寝巻きに用いる日本の衣服(着物)の意であることが分かる。

また, kant の訳語「飾り」の前に「譯建縁縫」の書き入れがある。『訳鍵』(長崎大学附属図書館蔵本)には「隅廉。縁縫。木臭。可愛。甘美。綺麗」(104 頁)とあり,確かに『訳鍵』を参照していたことが分かる。

【女性の衣服】 jak (5ウ3) ~schenken (7オ6)

ここに属する 25 語は,大きく二つに分類できる。

jak (5ウ3) から *schaar* (6ウ3) の 15 語は女性の衣服に関する単語である。rok は先の「男女衣服」と重複して掲出されているが, *NOUVELLE METHODE* でも同様に重複して収録されている。これらの単語の中で, *boezelaar* (エプロン) と *knipbeürsjc* (蝦蟇口) の 2 語は,『和蘭字彙』などの蘭日辞書にも収録されておらず, *knipbeürsjc* については,前述した Pieter Marin の蘭仏辞書にも見られない。

naaijen (6ウ4) から *schenken* (7オ6) までの 10 語は女性の服飾や生活に関する動詞である。*stoppen* (繕う) の「ふせ」, *breijen* (編む) の「めりやすすき」など,訳語に長崎方言が見られる。*knoopen* (ボタンで留める) の訳語に二段活用の「つくる」が用いられているのも長崎方言の特徴である。

【家屋と家財】 *deür* (7オ7) ~*ladder* (9ウ6)

これら 35 語は家屋・家財に関する単語である。これらの中で, *schúifraam* (スライド開閉式の窓) と *benedenzaal* (階下の広間) の 2 語は他の蘭日辞書にも見られない。

NOUVELLE METHODE がない『語彙控』独自の単語は,その前後の語の関連語を補ったものが多いが,ここでも *zijkamer* (脇部屋) の後ろに, *bovenkamer* (上階の部屋)・*benedenzaal* があつたり, *zolder* (屋根裏) の後ろに *zoldering* (天井)・*vliering* (屋根裏) があつたりと,同様の性格が指摘できる。

訳語の特徴的なものには, *glazen* (ガラスの) の「びいどろの」, *voorhúis* (家屋の街路に面した部分) の「をうゑ」, *stoep* (踏み台) の「銀場」があり,これらはそれぞれ長崎方言である。

また, *goot* には訳語「戸井」の他に「灌樋寛」という書き入れが存する。これは

『訳鍵』に「灌。桶。筧」(78オ)とあり、『訳鍵』の名は明記されていないものの、ここでも同書を参照していたことが分かる。

【家具】 *ledekant* (9ウ7) ～ *zwavelstok* (12オ1)

これら 30 語は寝具や机・椅子など家具に関する語である。*bed* (ベッド)・*deken* (毛布) など寝具に関する語、*vuúrmand* (加温器) など火器の類、*kaars* (蝋燭) など照明関係の単語がまとまって存する。

訳語で特徴的なものとしては、*stoel* (椅子) の「極六 (曲象)」、*zwavelstok* (マッチ) の「付木」などが挙げられる。曲象は主に僧家で用いる椅子のことであり長崎方言という訳ではないが、極六と表記している点に俗語的な要素が感じられる。

【台所用品】 *schoorsteen* (12オ2) ～ *doofpot* (12ウ7)

これら 13 語は、すべて *NOUVELLE METHODE* に収録されており、*haard* (竈) や *gootsteen* (流し)・*ketel* (茶缶) などの調理場・調理器具の他、*asch* (灰) や *rook* (煙) など、用具以外のものをも含んでいる。

訳語では、*haard* の「かまどこ」、*emmer* (手桶) の「たご」などが注目される。前者はカマドコロの語形で「長崎方言集覧」に記述があり、後者の田子は担桶のことであり、『日葡辞書』にも「Tago 水を運ぶのに用いる桶」とある。

また、*gootsteen* には訳語「とい」の他に、「流汚ノ石樋」の書き入れが存する。これは『訳鍵』に「流汚ノ石樋」(78オ)とあり、「家屋と家財」の部の *goot* と同様、『訳鍵』を参照していたことが分かる。

【地下貯蔵品】 *kan* (13オ1)

地下貯蔵品の部は、*NOUVELLE METHODE* には 18 語が収められているものの、『語彙控』には *kan* の一語が見られるのみであり、前の台所用品の中の一語と考えるべきかもしれない。なお、*kan* の語は、*NOUVELLE METHODE* では *kan bier tappen*⁷ や *Azynkan* (「食卓と食器」の部) の形で掲出されており、単独の用例はない。

【馬具・馬料】 *ruif* (13オ2) ～ *rijtuig* (13ウ4)

これら 10 語は、馬具・馬料に関する諸語である。*mest* (肥やし)・*zweep* (鞭)・*rijtuig* (車) の 3 語を除き、*NOUVELLE METHODE* に収録されている。

一例目の *ruif* は飼い葉格子のことであり、「厩」という訳語は誤りである⁸。

【食卓と食器】 *tafellaken* (13ウ5) ～ *wijn* (14ウ7)

これら 17 語の中、*flesch* (瓶、*NOUVELLE METHODE* では *Vles*)・*kopje* (カップ)・*schoteltje* (ソーサー)・*koffijkan* (コーヒーポット) の 4 語は、*NOUVELLE METHODE*

では, *flesch* が「地下貯蔵品」の部, 後の 3 語が「女性の衣服」の部に収録されている。『語彙控』は原則として *NOUVELLE METHODE* の項目順に語を配列しているが, 意味の面でより相応しいと思われる部分に移動される場合がある。これらはその例である。

また, *olic* (油)・*azijn* (酢)・*wijn* (ワイン) は, *NOUVELLE METHODE* ではそれぞれ *Olypotje* (油壺)・*Azynkan* (酢瓶)・*dronkWyn* (一口のワイン) の語形で掲出されている。*NOUVELLE METHODE* には, *azijn* 単独で「調味料」の部に, *wijn* 単独で「地下貯蔵品」の部に収録されているものの, *azijn* が『語彙控』の調味料の部にも重複して収められているため, ここの 3 語は *Olypotje* などの一部を取ったものと判断した。

訳語で注目されるのは, *tafellaken* (テーブルクロス) の「シッポクヲライ」, *vork* (フォーク) の「鋒」, *glas* (ガラス・コップ) の「ふらすこ」などである。シッポクは食卓の意の長崎方言であるが, 「家具」の部の *tafel* は机と訳されており, 食卓と一般の机で呼び分けのあったことが分かる。

フォークは「長崎方言集覧」の外来語の部に「ホコ 肉さしを云ふ。ホルコ」とあり, 長崎ではホコと発音されていたために, 鋒という漢字と結びつきやすかったのであろう。フラスコは *flesch* (瓶) のことであり, *glas* の訳語に用いることは『訳鍵』など他の辞書類には見られない。訳語に他の外来語を当てている点に, 「コヲビイ(コーヒー)」などの外来語を多用する傾向のある『語彙控』の特徴が現れている。

【料理一般】 *roggebrood* (15オ1) ～*krúim* (15オ4)

この 4 語はパンについての語である。パンのことを『訳鍵』など他の蘭日辞書では蒸餅と称することが多いが, ここではパンというポルトガル語を用いている。

【煮物】 *vleesch* (15オ5) ～*boonen* (15ウ4)

この 7 語は煮物に用いる食材である。*struif* の 1 語を除き *NOUVELLE METHODE* に存する。訳語では *wortelen* (人参) の訳語である「紅蘿蔔 (紅蘿蔔)」が注目される。『和蘭字彙』や『改訂増補蛮語箋』には「胡蘿蔔」とあり, 『日本国語大辞典』にも「胡蘿蔔」は人参の漢名であると記されているが, 紅蘿蔔は見られない。蘿蔔は大根であるため, 紅い大根＝人参の意で「紅蘿蔔」と記されているのかもしれない。

【焼き物】 *hoender* (15ウ5) ～*haas* (16オ5)

これら 8 語は焼いて食べる食材についての単語である。果物である *drúiven* (葡萄) がここに収録されているのは不審であるが, これはおそらく *dúiven* (鳩) の誤写であると考えられる。実際, *NOUVELLE METHODE* には *Hoenders* (鶏) と *Snippen* (鴨) の間には *Duiven* が存する⁹。

【海水魚】schelvisch (16オ6) ～oester (16ウ4)

これら6語は海水魚の名称である。kabljaauwの1語を除き *NOUVELLE METHODE* にも見られる。spieringの訳語「きすご」は、『物類称呼』に「きすご 関西に、きすご 江戸にて、きすと云」とあるように、鱈のことである。

【淡水魚】zalm (16ウ5) ～kreeft (17オ3)

これら6語は淡水魚の名称である。palingの1語を除き *NOUVELLE METHODE* に見られる。また、kreeftは *NOUVELLE METHODE* では海水魚の部に収録されているが、『語彙控』には淡水魚の部に収録されている。kreeftは伊勢海老のことであるが、ここではザリガニを指しているものと思われる。なおガネはカニを指す長崎方言である。

また、karper (鯉) と baars (鮒) の訳語は正しい訳語を訂して逆に記している。『和蘭字彙』の kaper の訳語には「鮒」とあり、『留麻和解』(近世蘭語学資料第1期、ゆまに書房、1997) の baars の訳語には「鯉」、karper の訳語には「川魚ノ名」とあるため、『語彙控』はこれらの辞書を参考に訳語を改めた可能性がある。paling の訳語は「大ウギ」と記した後、「大」と「ウ」の間に「ナ」を挿入している。

【調味料】zout (17オ4) ～uijen (17ウ3)

これら7語は調味料に関する諸語である。これらはすべて *NOUVELLE METHODE* にも収録されており、azijn は前述したように、「食卓と食器」の部と重複している。訳語で注目されるものは uijen (葱) の「ヒトモジ」である。この語は、もと「ねぎ」を「き」と一音で称していたことから来た女房詞である。

【デザート】kaas (17ウ4) ～kersen (17ウ6)

これら3語は食後に食べるデザートの語である。kaas (チーズ) には訳語が付されていないが、訳語がないのは『語彙控』ではこの語のみである。

【商行為】kopen (17ウ7) ～wegen (18オ7)

これら8語は商行為に関する動詞である。『語彙控』の収録語の多くは名詞であり、動詞は「女性の衣服」の部の一部とここに見られるのみである。これらは全て *NOUVELLE METHODE* の単語と一致するか一部一致している。

winnen (利益を得る) の訳語に「モウクル」と下二段活用の残存が見られる。dingen (値切る) の訳語「ネギル」の横には、「クツルト云コト 値より下ニコボル」という説明が付されており、当時としては説明の必要な耳慣れない語であった可能性がある。

前稿¹⁰でも述べたように、『語彙控』の収録語と *NOUVELLE METHODE* の収録語が完全に一致しているわけではなく、『語彙控』の収録語 245 語のうち、*NOUVELLE METHODE* の収録語と、全部ないし一部一致している単語は 192 語¹¹に過ぎない。また、残り 53 語のうち 6 語は『訳鍵』や『和蘭字彙』などの他の蘭日辞書にも収録されておらず¹²、今後、これらの単語がどこから『語彙控』にもたらされたのかを明らかにする必要がある。

一方、『語彙控』と対応している部分の *NOUVELLE METHODE* の中でも、第七章 *Van de Waereldlyke en Kerkelyke Waardigheden, en Beroepen*。(聖俗の貴人と職業)からは『語彙控』には 1 語も採られていない。『語彙控』の編纂にあたった人物(おそらく長崎通詞であると思われる)が、どのような単語を必要・不必要と考えたのかを考察することも興味深い課題であると考えている。

¹ 『『おらんだ語彙控』について』(『辞書遊歩——長崎で辞書を読む』,九州大学出版会,2004)でも述べたが、原題は表紙の破損により確認できない。『おらんだ語彙控』という書名は、1973年に武藤文庫の目録を作成する際に当時の調査員により付されたものと思われる。

² この *NOUVELLE METHODE* は、長崎通詞本木正栄らにより、その前半部分が『払郎察辞範』、後半部分が『和仏蘭対訳語林』として翻訳されており、通詞の間ではフランス語やオランダ語を学ぶ上で、重要な参考書となっていた。現在、両書ともに長崎歴史文化博物館に所蔵されている。

³ *NOUVELLE METHODE* には複数の版があり、日本には現在、1762年版、1770年版、1790年版が存在する。本稿においては、1790年版の国会図書館蔵本に基づき、*NOUVELLE METHODE* の収録語を記しておく。なお、本木正栄らが拠ったのは1775年版である。また、研究篇で述べるように、本資料は *NOUVELLE METHODE* の第三章～第六章、第七章に拠っているため、それ以外の部分に収められている単語は記していない。

⁴ 「Cacari,u,atta.カカリ,ル,ツタ(掛・懸・係かり,る,つた)つり下がる,または,垂れ下がっている。Cuguini cacaru.(釘に懸かる)釘に掛かってぶら下がっている。また,他の物に触れる。Mini cacatta(身にかかった)私に触れた」(土井忠生他訳『邦訳日葡辞書』岩波書店,1980)

⁵ 蘭仏辞書,1730(近世蘭語学資料第2期第4巻,ゆまに書房,1997)

⁶ 長崎市編『長崎市史 風俗編』(1923)

⁷ 「一杯のビールをつぐ」の意であり、*NOUVELLE METHODE* の翻訳書である『払郎察辞範』には「注一壺酒」とある。

⁸ 既に *stal* であり、『払郎察辞範』にも Ruyf の訳語には「株架」とある。

⁹ *NOUVELLE METHODE* のデザートの部には *Druiven* も収録されている。

¹⁰ 「長崎通詞の翻訳活動一『払郎察辞範』と『おらんだ語彙控』に注目して一」(『井上義彦教授退官記念論集 東西文化會通』,台湾学生書局,2006)

¹¹ この数値は、*NOUVELLE METHODE* の第三章～第六章、第七章以外の部分の収録語も対象としたものであり、本文篇にあげた単語の総数とは一致していない。

¹² 先にも一部述べたが、これらの中には Pieter Marin の蘭仏辞書や François Halma の蘭仏辞書(1729,近世蘭語学資料第2期第2巻,ゆまに書房,1997)にも収録されていない単語もある。